



右) 自宅から車で5分ぐらいの大須賀海岸は、親子お気に入りのスポット。左上) 自宅の2部屋をアトリエにして創業。裁断に使う型紙や製作した帽子が並ぶ。左下) 今後は帽子の受注生産のほか、自分でセレクトした布地の販売も計画している。下) 独り仕事と向き合う時間。子どもを寝かしつけた後に作業することもある。



小林さんの創業まで

2020年3月
勤務先がリモートを推奨

2021年6月 八戸で住居探し

8月 家族で八戸にUターン

8月 サポートセンターに相談

2022年1月
自宅アトリエにて創業

支援機関から一言

「あおりり移住起業支援事業費補助金」の申請に必要な計画書作成を中心に、お手伝いさせていただきました。東京と八戸を往復しながら書類作成や取引先との調整を行い、そして育児まで、本当に大変だったと思います。それでも小林さんは、持ち前のガッツで、見事に事業を実現させました。今後も事業を継続できるよう、引き続き一緒に頑張りましょう!

インフォメーション
with cloth



k715125512525623@outlook.jp

小林さんは、出産や育児で離職した女性が在宅で働く機会を提供できないかと、外注先の開拓を進めており、現在は関東に20人ほどいるが、青森ではまだ10人ほど。出産後の再就職は条件が厳しく、苦勞する。小林さん自身も経験した。だからこ

女性が働くチャンスを増やしたい
現在は自宅の一角をアトリエにして通勤時間もなくなった。子どもたちの帰りを家で迎えられるのが何より嬉しいという。夜に作業するときも自宅だから一緒にいられて安心だ。

「子どもがいるから無理だと諦観せず、やりたいことに手をのばして欲しいと願っている。」
「地方でも好きな仕事をやれると証明したかった」
小林さんが創業した理由の根底にはそんな思いがあった。
現在は東京からの受注がメインだが、いずれは地元企業の制服などをデザインしたいという夢がある。今後は自身がセレクトした布地の販売事業も始める予定。自分が経営者になったからこそ、子どもたちに寄り添いながら、服飾の仕事が続けることができている。



子どもたちを見守りながら
好きな仕事に向き合える喜び。



Uターン 小林 浩子さん
八戸市→東京都→八戸市
帽子製造(個人事業主)
2022年1月創業

好きだった服飾の道を歩みながら、東京で育児に仕事に忙しい日々を送っていた小林さん。Uターン後に手に入れたライフスタイルを伺った。

コロナ禍をきっかけに
Uターン

夫と3人の子どもたちと暮らす小林さん。子どもたちは現在、15歳、11歳、7歳になる。大学で服飾を学び、都内のアパレルメーカーに勤務。出産後は育児と仕事の両立のため、帽子の製造販売を行う会社へ転職した。20年過ごした東京から八戸へのUターンを考えるようになったのは、コロナ禍で会社ガリモートワークを推奨したのがきっかけ。「引越すなら、下の子が小学校に上がる前だよね」と夫と話していたので、動くなら今だと思った。
会社員のままでは自分がやりたいことにも限界があるため、八戸でも好きな仕事を続けられるように独立を決意。はちのへ創業・事業承継サポートセンター(8サポ)でアドバイスをもらい、2021年1月に個人事業主となった。退職

した会社と繋がりが、注文を受けて自らミシンを踏む。「創業時は特に書類作成で助けられた」
確定申告なんて全然分かんなかった、と苦笑いの小林さん。経験分野からの起業であっても、経営者として初めて向き合う業務がいくつもある。なかでも計画書や会計について頼れる場所があるのは心強い。
子どもとの時間が増えた
東京時代はとにかく忙しかったと振り返る。通勤に往復一時間半、コロナ禍で保育園が休園になると、日中は自宅で子どもの世話をし、帰宅した夫とバトンタッチで夜間に出動する時期もあった。
「当時はやりたいことがあっても何もできなかった」で終わる日々だった。起業した今は子どもたちを身近に感じながら、前より自由な時間が増えたと感じる。